

すす べんきょう ちから
進んで勉強する力をつける

かていがくしゅう

家庭学習 ガイドブック

たの べんきょう しかた
～楽しい勉強の仕方がわかるよ！～

しょうがっこう ねん
(小学校3・4年)



中能登町学力向上推進委員会

家庭学習を進めるために

まず・・・連絡帳れんらくちょうで、今日の宿題しゅくだいをたしかめよう。

つぎ次に・・・“作戦”さくせん（予定よてい）を立てよう。順番じゅんばんを決めよう。

そして・・・順番じゅんばんどおりに教科書きょうかしょ、ノートなどを重ねかさよう。

～ さあ！始めよう！ ～

つくえ 机がくしゅうようぐの上は学習用具だけに
しよう

せすじ の 背筋を伸ばしてよい姿勢しせいで
取り組もう

しゅうちゅう 集中できるところを
決めよう

テレビの音の聞こえない
しずかなところでやろう



～ さあ、終わったら・・・～

まず・・・終わったら連絡帳れんらくちょうに〇をつけよう。

つぎ次に・・・お家の人に見てもらおう。

そして・・・明日あしたの用意よういをしよう。

家庭学習のメニューとやり方（3・4年）

☆日づけ、ドリルの番号、取りかかりの時こく・終わった時こくを、ノートの上を書く。

国語

1 【音読練習方法^{ほう}】

- ① 文章を指でなぞりながら読む。（1回目）
- ② もう一度、くり返す。（2回目）
- ③ 「1ページ、1回も読みまちがいなし」にチャレンジする。
（1日に1ページずつえらんでチャレンジする）
- ④ チャレンジページを読みまちがいなしで読む。（3回目）
- ⑤ お家の人に「読みまちがいなし音読」を聞いてもらう。
（OKだったら、そのページの右上に花丸を書く。）
- ⑥ 音読練習カードに、日づけ、題名、音読回数を書く。

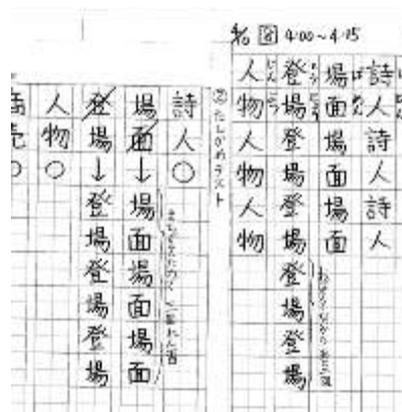


[練習のポイント]

- ・音読力をつけることは、小学校での基礎の基礎である。そのため、徹底練習することが必要である。
- ・音読練習は、聞いてもらえる相手がいないと意欲が湧かない。チャレンジページでは、相手を持意識して音読をすることが大切である。

2 【漢字練習方法^{ほう}】

- ① 正しい漢字を見て、ていねいに3回つぶやきながら書く。
- ② おぼえていないなあと思ったら、あと2回書く。
- ③ ドリルのふと字のひらがなを見て、「たしかめテスト」をする。
- ④ まちがえた漢字は、正しい漢字を見て下に3回つぶやきながら書く。
- ⑤ ふり返りを、記号(🌀 ◎○△)でするか、練習のかんそうメモを書く。



[練習のポイント]

- ・覚えようという気持ちで練習することが大切である。
- ・漢字ノート等を準備し「たしかめテスト」を確実にする。
- ・覚えていない漢字は、すぐに練習をして、確実に習得する。
- ・最後に、簡単なふり返りをし、達成感を味わうようにする。

3 【文字を書く力をのばす方法・・・視写^{ほう}】

- ① 国語の教科書を書き、ノートに1ページ分ていねいにし写する。
- ② 時間をかけ、きちりした文字で書く。
- ③ 最初のし写のページと見くらべる。



[練習のポイント]

- ・丁寧を書く。最初のページは丁寧に書いているので、最初のページと見比べることが上達のポイントである。

4 【文字を書く力をのばす方法・・・ローマ字^{ほう}】

- ① ローマ字表を見て、ローマ字を正しく写す。(今日はア行とか・・・a i u e o)
- ② ローマ字表を見ないで思い出して書く。
- ③ ローマ字表を見て、まちがえていたら正しいローマ字を3回書く。
- ④ アのつく言葉、イのつく言葉・・・オのつく言葉をローマ字で書く。(アイス a i s u, いけ i k e …) または、ローマ字ノートの問題を見てローマ字で書く。
- ⑤ ローマ字表か、こたえを見て、まちがえていたら正しいローマ字を3回書く。

[練習のポイント]

- ・徹底練習してすらすら書けるようにする。しばらく練習しないと忘れてしまうので、1週間後にもう1度同じ問題に挑戦してみる。
- ・大文字も練習してすらすらになると、パソコンでけんさくするとき、ローマ字で入力できるようになる。

5 【暗しよう練習方法^{ほう}】

- ① 暗しようするものを選ぶ。(今月の詩, 教科書の詩, 俳句, 短歌等)
- ② かくしたり見たりしながら少しずつ覚える。
- ③ 覚えたら、どれだけ覚えられたかお家の人か先生に聞いてもらう
- ④ しっかり覚えていない所の暗しよう練習をする。
- ⑤ もう一度, お家の人か先生に聞いてもらう。
- ⑥ ページの右上に日づけを書き、ふり返りを記号 (🌸 ◎○△) でする。

言えた!

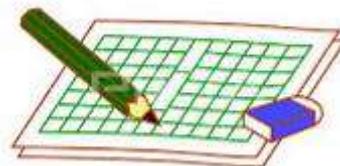


[練習のポイント]

- ・覚えなければいけないところを徹底して練習することが大切である。
- ・覚えたことを他から認められることが習得への意欲となる。聞いた人が花丸 (お家の人) ・シール (先生) 等で成果をみとめていく。

6 【文章を書く力をのばす方法…ミニ作文づくり】^{ほう}

- ① 日々の出来事からテーマをえらぶ。
- ② 用紙に、日づけ、テーマ、名前を書き、100文字以上（ただし文は3文以上に）のミニ作文を書く。
- ③ ならった漢字をできるだけ使う。
- ④ 書いたあと、いつ・どこで・だれと・何をした・どうなったかなどがぬけていたら、ふき出しでつけたす。



[練習のポイント]

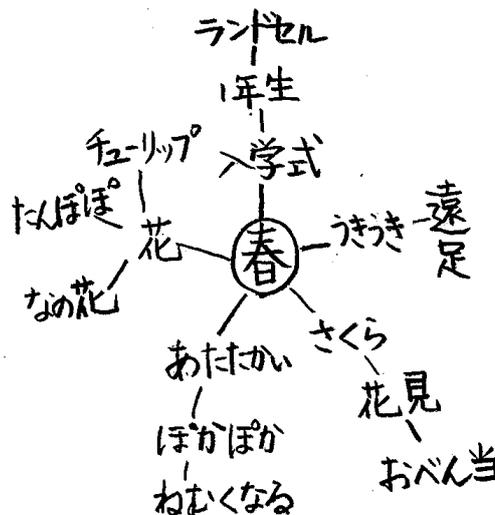
- ・ 長い文で書くことを避ける。主語・述語があわなくなることをなくすため。
- ・ 100マスの作文プリントを事前に何枚も渡しておくのもよい。

7 【言葉をふやす練習方法】^{ほう}

- ① 意味の分からない言葉を見つけたら、まず、人に聞く。
- ② 聞けないときや、もっと知りたいときは、国語辞典ですぐ調べる。（ふせんをはる。）



- ③ 言葉をふやす（言葉のわを広げる）ために、国語の教科書や漢字ドリルなどの言葉を使って、イメージマップ作りをする。
- ④ 国語の教科書の後ろにある「言葉のたから箱」を使って、短い文を作る。



[練習のポイント]

- ・ イメージマップの中に10個以上書けるようにする。
語彙数は、経験・体験・交流等、生活の広がりや深く関わるので、様々な場面でそばにいる人が「〇〇は～だよ。」と語りかけたり、質問されたら一緒に調べたりする。
- ・ 語彙数は、読書量と深く関わる。読書をする時間を作るなど読書量を増やす働きかけを継続的に行う。



算数

8 【計算練習方法^{ほう}】

- ① 練習のねらいをく　　>で書く。
- ② まず、10題練習する。
- ③ 答え合わせをする。
- ④ まちがっていたら、「あっ、そうか！〇〇をまちがえた」のふき出しにまちがった所を書く。
- ⑤ まちがった計算をもう一どする。
- ⑥ 次に、10題練習する。
- ⑦ ふり返りを、記号( ◎○△) ですか、練習のかんそうメモを書く。

あっ、そうか！
7のだんの九九をまちがえた。

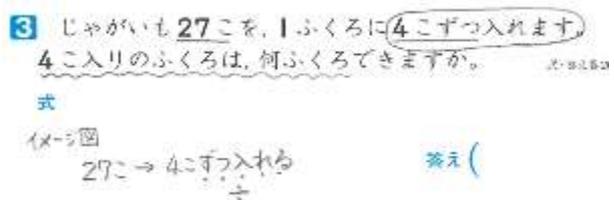


[練習のポイント]

- ・ 答え合わせは、自分で行う。
- ・ 間違った計算では、「あっ、そうか！」の吹き出しを書き、間違いを意識化する。
- ・ 間違った計算を再度、練習する。

9 【文章題練習方法^{ほう}】

- ① □ チャレンジする文章題、3～5題をえらぶ。
(計算ドリル・文章題プリントつづりから)
- ② どんな問題か、ちゅう意して読む。
- ③ 「たずねていること」「計算に使う数字」に線を引く。「計算を決める言葉」に丸をつける。
- ④ 問題場面をイメージし、読み返す。
- ⑤ 計算に使う数字・計算を決める言葉・たずねていること・→などを使ってイメージ図をかく。
- ⑥ 図(丸図・テープ図・線分図)をかく。
- ⑦ 式をつくり、答えを出す。
- ⑧ 答えの書き方が問題に合っているかたしかめる。
- ⑨ 答え合わせをする。
(まちがいをふき出しに書く。)
(もう一度やり直す。)
(あっていたらならば次の問題へ進む。)
- ⑩ ふり返りを、記号( ◎○△) ですか、練習のかんそうメモを書く。



[練習のポイント]

- ・はじめは、先生から指定された問題をする。(ドリルの○番)
- ・進んで取り組みたい人は文章題プリントの問題をする。
- ・「尋ねていること」「計算に使う数字」「計算を決める言葉」等を書きだし、イメージ図や図にかくと題意をつかみやすい。
- ・図をもとに、公式を活用したり、計算を決定したりする言葉を活用して立式する。(思いつきの立式をすることがよくある。図と式とのつながりに注目させ、式を確かめさせる。)
- ・答え合わせは、自分で行うことを原則とする。(自立解決の充実感を持つことができる。)
- ・ときには、いじわる問題〈条件不足・条件過多の問題〉に挑戦してみることも大切である。

社会・理科

10 【暗記練習方法^{ほう}】

- ① 暗記するものを選ぶ。(社会…地図記号, 方位, 石川県の郡市・山や川, 県名, 理科…教科書の大切な言葉, 実けんき具の名前や使い方など)
- ② 読んだり書いたりかくしたり見たりしながら少しずつ覚える。
- ③ 覚えたら, お家の人か先生に聞いてもらう。
(どれだけ覚えられたか)
- ④ しっかり覚えていない所の暗記練習をする。
- ⑤ もう一度, お家の人か先生に聞いてもらう。
- ⑥ ふり返りを, 記号  ◎○△) ですか, 練習のかんそうメモを書く。

おぼえるぞ!



[練習のポイント]

- ・覚えたことを他から認められることが習得への意欲となる。聞いた人が花丸(お家の人)・シール(先生)等で成果をみとめていく。

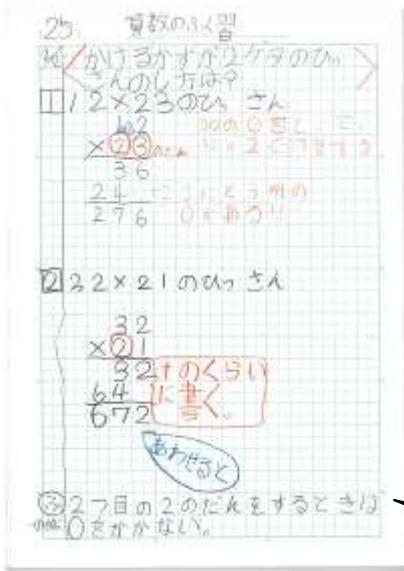
進んで勉強（復習）

ふく習の仕方の例

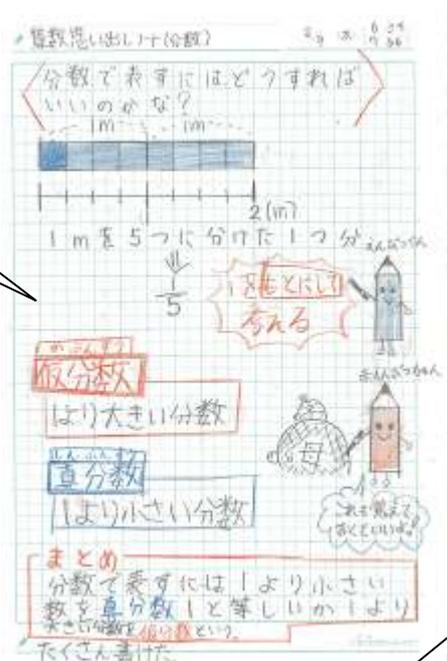
今日学習したことを
思い出しながら、

- ①ノートを写す。
- ②ふり返りを書く。分かったこと、友だちの考え、自分の考え、思ったこと
- ③問題（か題）だけ書いてもう1度チャレンジする。
- ④キーワードだけ書いて、その説明を書く。
- ⑤習ったこと（やり方・わけなど）を、説明する。
- ⑥キャラクターを登場させ、ポイントをふき出しに書く。

自分の言葉で、
わかりやすく



④キーワードを書い
て、その説明を書く。

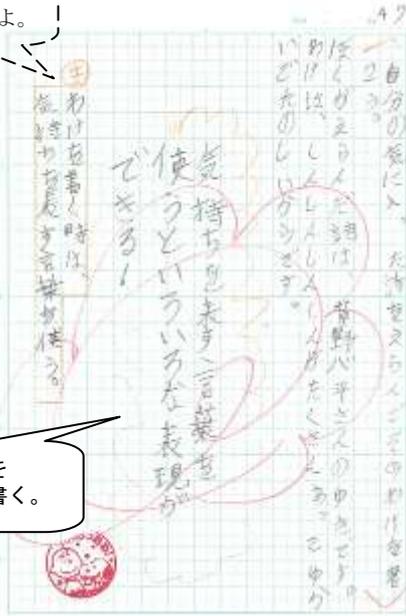


②ふり返りを書く。

⑥キャラクターを登場させ、ポイ
ントをふき出しに書く。

③か題を書いてもう1度
チャレンジする。

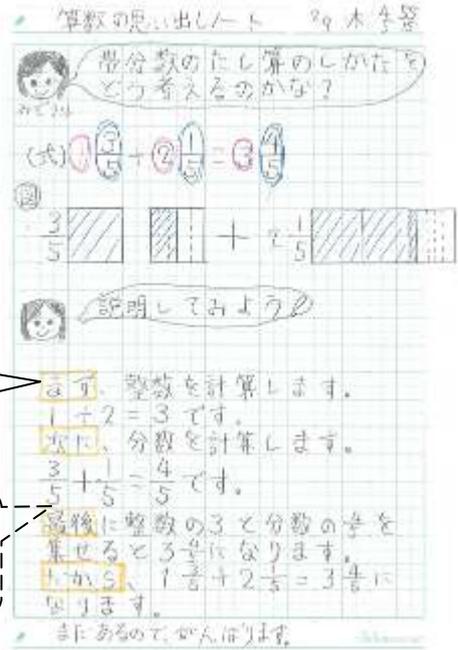
自分で考えてま
とめを書いたよ。



⑥ポイントを
ふき出しに書く。

⑤やり方を、
説明する。

「まず、次に」
を使ってじゅん
じょよく説明し
ているね。



中学年の家庭学習時間

まずは、**10分！**すぐにクリア！

次は**20分！**



次は、**30分！**がんばろう！



できるかも！40分！



これだけできれば高学年への準備OK！

保護者の方へ

大切な親の目

- 1 できたことをほめる
- 2 頑張りを目に見える形で残す
- 3 関心をもっているというメッセージを送る



家庭学習で

- ☆ 生活時間を有効に、計画的に使うことができる子どもになります
(学習や読書などの時間がテレビやゲームに費やす時間より多い)
- ☆ 家庭学習の習慣や方法を身に付けた子どもになります
- ☆ 基礎的・基本的な学習内容を身に付けた子どもになります
- ☆ むずかしい課題でも立ち向かおうと頑張る子どもになります



進んで勉強する力をつける

家庭学習 ガイドブック

～楽しい勉強の仕方が分かるよ！～

2017年4月

中能登町学力向上推進委員会